

Annual Journal of
the Asian Cultures Research Institute

No. 52

アジア文化研究所
研究年報

2017

東 洋 大 学
アジア文化研究所
(旧・アジア・アフリカ文化研究所)
The Asian Cultures Research Institute
former Asia-Africa Cultural Research Institute
TOYO University

Annual Journal of
the Asian Cultures Research Institute

No. 52

アジア文化研究所
研究年報

2017

東 洋 大 学
アジア文化研究所
(旧・アジア・アフリカ文化研究所)
The Asian Cultures Research Institute
former Asia-Africa Cultural Research Institute
TOYO University

目 次

昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象 (3) ——神戸篇 (後篇) 陳舜臣——	福 田 義 昭 … 1(366)
中國五代十國時期墓誌綜合目錄 (増訂稿)	高 橋 繼 男 … 24(343) 竹 内 洋 介
血統と血脈の相剋——植民地朝鮮における司法判断の諸相——	吉 川 美 華 … 70(297)
日汉翻译——以《天声人语》(1992.1.27) 为例——	续 三 义 … 91(276)
ゴォ・ヴァン・チェウ (Ngô Văn Chiếu) と カオダイ教内教心傳 (Nội Giáo Tâm Truyền)	高 津 茂 …101(266)
ベトナム・ビンフォック省に居住するプロ集団の婚礼の変容	本 多 守 …123(244)
マレーシアのチャムを訪ねて ——マレーシアにおけるチャムコミュニティの初期調査——	中 村 理 恵 …139(228)
<hr/>	
【報告】 平成29年度井上記念研究助成 大型研究特別支援助成報告 「『一帯一路』経済政策による中国経済の海外展開とその関係諸地域に及ぼす 文化的影響」	…159(208)
【報告】 研究所プロジェクト 「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する 研究」	…203(164)
【報告】 研究所プロジェクト 「アジア諸言語史資料の汎用性データベース開発と構築」	…241(126)
【研究所活動記録 2016～2017年度】 調査・研究活動	…293(74)
研究会合報告	…296(71)
研究班活動報告	…306(61)
研究所所報	…313(54)
投稿規程・執筆要領	…329(38)
<hr/>	
新仏教徒能海寛の『在渝日記』に見る連作五言詩について	飯 塚 勝 重 …347(20)
孔明出廬に関する二・三の疑問	菊 池 良 輝 …366(1)

CONTENTS

Literary Representation of Muslims in Japan during the Showa Period (3): Works Set in Kobe (2) Chin Shunshin.....	FUKUDA Yoshiaki ... 1(366)
Catalog of Bibliographic Sources of Stone Tomb Inscriptions during the Five Dynasties and Ten Kingdoms Period in China (Revised and Enlarged Edition)	TAKAHASHI Tsuguo TAKEUCHI Yosuke ... 24(343)
Contradiction of Lineage and Biological Connection: Aspects of Judicial Decisions in Colonial Korea	YOSHIKAWA Mika ... 70(297)
Japanese-Chinese Translations: An Analysis of the Chinese Translations of the ‘Vox Populi, Vox Dei’ (1992.1.27)	XU Sanyi ... 91(276)
About Ngo Van Chieu and the Caodai Esotericism	TAKATSU Shigeru ...101(266)
The Changes of the Wedding Process of the Blou Group in Binh Phuoc Province, Vietnam	HONDA Mamoru ...123(244)
The Cham People in Malaysia: Results of the Preliminary Field Research	NAKAMURA Rie ...139(228)
<hr/>	
The Progress of China’s Overseas Economic Expansion by “Belt and Road Initiative” (B&R) and its Cultural Influence to B&R Related Regions	159(208)
A Study on the Conflict and the Assimilation of Western Modern Law and Traditional Chinese Law in the Zhujiang River Estuary Area	203(164)
Development and Construction of the General-Purpose Database for the Documentations in Asian Languages	241(126)
2017 Activities	
Research Reports.....	293(74)
Study Meetings	296(71)
Activities of Research Groups	306(61)
Announcement.....	313(54)
For Authors/Submission Guidelines	329(38)
<hr/>	
On a Cycle of Chinese Five-word Poems in so Called New Buddhist Yutaka Nomi’s “Zaiyu Nikki (在渝日記)”	IIZUKA Katsushige ...347(20)
Some Question about the Kong-ming’s (Zhu-ge Liang) Going out Hermitage.	KIKUCHI Yoshiteru ...366(1)

平成29年度井上記念研究助成 大型研究特別支援助成報告

「一帯一路」経済政策による中国経済の海外展開と その関係諸地域に及ぼす文化的影響

The Progress of China's Overseas Economic Expansion by "Belt and Road Initiative" (B&R) and its Cultural Influence to B&R Related Regions

代表 松 本 誠 一

研究所プロジェクト

平成29（2017）年度 事業報告

珠江デルタ地帯における西洋近代法と 伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究

A Study on the Conflict and the Assimilation of Western Modern Law and
Traditional Chinese Law in the Zhujiang River Estuary Area

代表者 井 上 貴 也

研究所プロジェクト

平成29（2017）年度 事業報告

アジア諸言語史資料の 汎用性データベース開発と構築

Development and Construction of the General-Purpose Database for the
Documentations in Asian Languages

代表 三 沢 伸 生

研究所活動記録 2016～2017年度

- 調査・研究活動
- 研究会合報告
- 研究班活動
- 研究所所報 アジア文化研究所日誌（平成29年1月～平成29年12月）
- 投稿規程・執筆要領

調査・研究活動——2016年1月～2017年12月

平成29（2017）年度 研究経費採択一覧

【井上記念大型研究特別支援助成（以下、大型研究と称する）1件】

- ・新規採択「一帯一路」経済施策による中国経済の海外進展とその関係諸地域に及ぼす文化的影響 代表 松本誠一所長

【研究所プロジェクト 3件】

- ・継続採択「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」
代表 井上貴也研究員
- ・継続採択「アジア諸言語史資料の汎用性データベース開発と構築」
代表 三沢伸生研究員
- ・新規採択「在日ムスリムによる多文化共生社会構築の試み—インドネシア人、トルコ人、パキスタン人の宗教ネットワークを事例に」
代表 子島進研究員

【大型研究】

●課題名「アジアにおける国境をまたぐ生活スタイルの研究—東アジア・東南アジア・南アジアの比較を中心に」1件

※この課題はH28年度で終了のため詳しい活動内容は、前年度発行の研究年報第51号、436ページ【報告】をご参照ください。

1. 調査・研究活動：課題に関する「境域研究セミナー」での報告及び現地での聞き取り調査
研究分担者 石井 正子
客員研究員 鈴木 佑記・間瀬 朋子
期 間 2017年1月6日～1月9日
調査地 宮城県（気仙沼市）

●課題名「一帯一路」経済施策による中国経済の海外進展とその関係諸地域に及ぼす文化的影響 2件 ※詳しい活動内容は本号所収の【報告】上記題名箇所をご参照ください。

1. 調査・研究活動：課題に関する調査（一帯一路経済圏構想研究）
研究員 後藤 武秀
期 間 2017年8月10日～8月22日
調査地 中国（広州・深セン）
2. 調査・研究活動：課題に関する資料調査及び研究の打合せ等
研究員 カク 仁平
期 間 2017年8月5日～8月12日

調査地 中国（西安市・重慶市 等）

【研究所プロジェクト】

●課題名「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」における香港・中国での法の調査 8件

※詳しい活動内容は本号所収の【報告】上記題名箇所をご参照ください。

1. 調査・研究活動：課題に関する資料収集および調査
研究員：後藤 武秀
期 間：2017年1月12日～1月15日
調査地：台湾（台北市）
2. 調査・研究活動：課題に関する利用調査・研究打合せ
研究員：後藤 武秀
期 間：2017年4月28日～5月8日
調査地：中国（広州・深セン）
3. 調査・研究活動：課題に関する研究報告（遼寧大学に於いて）
研究員：後藤 武秀
期 間：2017年9月6日～9月9日
調査地：中国（遼寧省瀋陽）
4. 調査・研究活動：課題に関する研究報告（遼寧大学に於いて）
研究員：井上 貴也
期 間：2017年9月6日～9月9日
調査地：中国（遼寧省瀋陽）
5. 調査・研究活動：課題に関する研究会参加・研究打合せ
研究員：朱 大明
期 間：2017年10月5日～10月13日
調査地：東洋大学
6. 調査・研究活動：課題に関する資料収集
研究員：後藤 武秀
期 間：2017年11月9日～11月12日
調査地：中国（北京）
7. 調査・研究活動：課題に関する調査（国立中央図書館における資料調査）
研究員：後藤 武秀
期 間：2017年12月21日～12月24日

調査地：台北

8. 調査・研究活動：課題に関する調査（中山大學における資料調査他）

研究員：後藤 武秀

期 間：2017年12月26日～12月31日

調査地：中国（広州）

●課題名「在日ムスリムによる多文化共生社会構築の試み—インドネシア人、トルコ人、パキスタン人の宗教ネットワークを事例に」1件

※詳しい活動内容は本号所収の【報告】上記題名箇所をご参照ください。

1. 調査・研究活動：課題に関する打ち合わせ等（服部教授との打合せ及び、東海地区でのモスク訪問）

研究員：子島 進

期 間：2017年12月9日～12月11日

調査地：名古屋

研究会合報告——2016年度～2017年度

シンポジウム・講演会・研究会

〈年次集会〉

●第11回年次集会

日時：2017年1月21日(土)

会場：東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホール中央

- ・開会の挨拶：アジア文化研究所所長 松本 誠一
- ・テーマ発表：「アジアにおける国境をまたぐ生活スタイルの研究—東アジア・東南アジア南アジアの比較を中心に—」
- ・総合司会：研究員 子島 進

【東アジア】

- ・「国境をまたぐ家族生活」の現状と課題—中国における予備調査結果を踏まえて—
権香淑（アジア文化研究所客員研究員） 梁凌詩ナンシー（アジア文化研究所研究支援者）

【東南アジア】

- ・在気仙沼・インドネシア人水産加工・漁業従事者の社会経済的再統合をめぐる考察
間瀬朋子（アジア文化研究所研究員）

【南アジア】

- ・国境を越えた生活をもたらした途上国における変化—バネバ市を事例として
バイラ・プラサド・ピレンドラ（東洋大学アジア文化研究所研究員）



開会の挨拶 松本所長



会場風景

【院生研究員発表】

- ・「陸羯南の朝鮮認識」中村祐也（東洋大学アジア文化研究所院生研究員）
- ・「唐後半期の浙西について」小林栄輝（東洋大学アジア文化研究所院生研究員）

【客員研究員発表】

- ・「台湾における公民投票法と投票実施」山形勝義（東洋大学アジア文化研究所客員研究員）

- ・「生誕150年記念 河口慧海・能海寛が目指したチベット」飯塚勝重（東洋大学アジア文化研究所 客員研究員）

【研究所プロジェクト報告】

長津プロジェクト

- ・「在日コリアン寺院」にみる宗教的実践のダイナミクス」宮下良子（東洋大学アジア文化研究所 客員研究員）

井上プロジェクト

- ・「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」後藤武秀（東洋大学アジア文化研究所研究員）

三沢プロジェクト

- ・「アジア諸言語史資料の汎用性データベース開発と構築」竹内洋介（アジア文化研究所客員研究員）

【閉会の挨拶】 後藤武秀（アジア文化研究所研究員）

〈シンポジウム〉

●アジア文化研究所共催「韓国の大統領弾劾訴追の諸相：市民の憲法」

日時：2017年3月14日（火）

会場：東洋大学白山キャンパス6402教室

共催：科研費（基盤C）（代表 吉川美華）・東洋大学アジア文化研究所

- ・開会の辞 松本誠一（東洋大学社会学部教授・東洋大学アジア文化研究所所長）
- ・趣旨説明 吉川美華（東洋大学アジア文化研究所客員研究員）
- ・「裁判官の任命と判断傾向」牧野力也（筑波大学大学院博士課程）
- ・「ナショナリズムとトランスナショナリズム—韓国を中心に」松本誠一（東洋大学アジア文化研究所所長）
- ・「韓国のポスト民主化と朴槿恵弾劾」大畑裕嗣（東洋大学アジア文化研究所客員研究員）
- ・総合コメンテーター 山本勇二（東京新聞論説委員）
- ・質疑応答
- ・閉会の辞 吉川美華（東洋大学アジア文化研究所客員研究員）

●アジア文化研究所公開シンポジウム・大型研究プロジェクト研究会

「中国の胎動への視座」

日時：2017年7月22日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス6号館2階 6208教室

共催：井上記念大型研究特別支援助成（大型研究）・アジア文化研究所内「構造転換期の中国経済と社会」研究班（郝仁平）

- ・総合司会：郝仁平（経済学部教授 / アジア文化研究所・研究員）
- ・「晋商のキャフタ茶貿易について」
馬燕平（山西大学商務学院・准教授 / 東洋大学・外国人研究員）

- ・「改革開放初期的中日教育合作」
王雪萍（東洋大学・准教授 / アジア文化研究所・研究員）
- ・「一带一路に関する海外研究動向：英語論文を中心に」
梁凌詩ナンシー（東洋大学アジア文化研究所・研究支援者）
- ・コメント 後藤武秀（法学部教授 / アジア文化研究所・研究員）

平成29年度東洋大学井上円了記念助成金助成・大型研究特別支援助成に基づくプロジェクト「一带一路」経済施策による中国経済の海外進出とその関係諸地域に及ぼす文化的影響」による研究成果公開の一環として、上記のプログラムで公開シンポジウムが開催された。大学など研究機関の研究者約30名が出席する中、中国から招かれた学者や研究員3名が研究報告を行い、フロアとの活発な質疑応答も行った。馬報告では、近代におけるロシアと清の民間貿易であるキャフタ貿易の実態を紹介したうえ、露清間の茶貿易に果たした山西商人の役割を明らかにした。王報告では、一次資料およびアンケート調査の結果を用いて、改革開放初期の1980年代における日中教育合作および文化交流の効果と影響を分析した。そして梁報告では、これまでに収集した「一带一路」に関連する文献資料に基づいて英語文献を中心とした海外の研究動向を紹介した。最後の質疑応答では、出席者から多くの質問が出され、活発な討論が展開され、シンポジウムは成功裏に終わった。



参加者・発表者集合写真



左から梁凌詩ナンシー研究支援者、馬燕平先生、郝仁平研究員、王雪萍研究員

●アジア文化研究所公開シンポジウム

『華陽国志』の世界 ～巴、蜀、そして南方へのまなざし～

日時：2017年9月30日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス 8号館 125記念ホール

主催：研究所プロジェクト（代表者 三沢伸生）

共催：東洋大学アジア文化研究所 千葉研究班

- ・司会：大室 智人（アジア文化研究所客員研究員）
竹内 洋介（アジア文化研究所客員研究員）
- ・開会の辞 三沢 伸生（社会学部教授・アジア文化研究所研究員・研究プロジェクト代表）
- ・趣旨説明 竹内 洋介（アジア文化研究所客員研究員）
- ・『華陽国志』に見られる蜀漢叙述 津田 資久（国士舘大学教授）

- ・「孫呉の南方展開とその影響」 菊地 大（國學院大學兼任講師）
- ・『華陽国志』と賈民李特 飯塚 勝重（アジア文化研究所客員研究員）
- ・コメント 石井 仁（駒澤大学教授）
- ・総合討論
- ・閉会の辞 千葉 正史（文学部教授・アジア文化研究所研究員）

アジア文化研究所（以下本研究所以する）研究年報において、1974年度から1999年度に亘って分割連載された「華陽国志訳注稿」（以下、「訳注稿」とする）は、日本で唯一の『華陽国志』全巻訳注であり、同史料の研究に先鞭をつけた、本研究所以を代表する研究成果の1つである。

近年、日本国内においては『華陽国志』を取り巻く研究が低調である一方、中国においては顕著に注目が高まっている。本研究所以ではこの状況を受け、三沢伸生研究員を代表とする井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト「ア



会場風景

ジア諸言語史史料の汎用性データベースの開発と構築」の一環として、「訳注稿」の成果を元に、日本国内における『華陽国志』研究の発展を目指す作業を進めることとした。2016年度は、内外の研究者に広く「訳注稿」を活用してもらう上で、利便性を向上させるために『華陽国志訳注稿』人名・地名・官職名索引』を作成、出版したところ、多くの反響を頂いた。引き続いて本年度は、国内における『華陽国志』研究の基幹となる研究会の開催を目指し、関連する専門の先生方に広く呼びかけて研究講演をお願いしたところ、津田資久先生、菊地大先生よりご快諾頂いた。そこで本研究所以の飯塚勝重客員研究員と併せて3本の講演テーマを掲げ、さらにコメンテーターとして石井仁先生をお招きして、本研究所以「東アジア地域における統合と交流」研究班との共催により、公開シンポジウムを開くことができた。

以下、当日の進行の要点を記載する。三沢伸生研究員による開会挨拶の後、竹内洋介客員研究員がシンポジウムの趣旨についての説明を行った。続く講演では、津田先生は『華陽国志』内における蜀漢の叙述と、序志・巻12の記述内容について話され、常璩による『華陽国志』の撰述意図について問題提起が行われた。菊地先生は三国時代・孫呉の東南アジア方面への展開について、曹魏・蜀漢との関係性を絡め、正史と『華陽国志』の内容から検討して提示された。飯塚客員研究員は、巴における賈民について『華陽国志』の記述から探求し、明らかにしようと試みた。

講演終了後、コメンテーターの石井先生から、『華陽国志』の史料としての性格と学会の研究動向を踏まえた上での、本シンポジウムの位置づけと意義についてのコメントがあった。また今回の各講演について、津田先生の内容は『華陽国志』を史学史的な視点から、史料としての性格を探求したもの、菊地先生、飯塚客員研究員の内容は『華陽国志』と他の史料の比較を通じて地域研究を行ったものと総括したうえで、それぞれ詳細なコメントと質問があった。

続いて全体の質疑応答に移り、講演者の先生方に参加者から質問が出され、活発な議論が行われた。最後に千葉正史研究員より閉会の挨拶があり、今回のシンポジウムを終了した。

●アジア文化研究所協力「早稲田大学イスラーム地域研究機構 史料展示会・講演会・国際シンポジウム」

日時：2017年9月30日(土)～10月1日(日)

会場：早稲田大学 大隈記念タワー・小野記念講堂

共催：早稲田大学イスラーム地域研究機構・トルコ共和国首相府オスマン文書館

協力：アジア文化研究所三沢研究班

【講演会 オスマン帝国の軍制改革・正統性文書史料Military Reforms, Legitimacy, and Archival Documents in the Ottoman Empire】

- ・「The Abolition of the Janissary Corps during Reign of Sultan Mahmud II」
メフメト・メルト・スナル（イスタンブール文明大学）
- ・「Conflicting Structures of Legitimate Power during the Hamidian Autocracy : A Reappraisal of the Regime Abdulhamid II」
セルチュク・アクシン・ソメル（サバンジュ大学）
- ・「Brief Information on the Ottoman Archives」
ウール・ユナル（首相府オスマン文書館）

【史料展示会 オスマン帝国と日本—首相府オスマン文書館所蔵史料から— The Ottoman Empire and Japan : Records from the Prime Minister's Archives】

トルコ共和国首相府オスマン文書館に収蔵されている膨大な史料のうち、オスマン帝国と日本の関係史に関するものの複製（ポスター）を展示。講演会と国際シンポジウムの会場で開催。

【国際シンポジウム 近代オスマン帝国の軍事と教育Military Affairs and Education in the Late Ottoman Empire】

- ・「Transferring European Drill and Discipline : Military Drill Manuals in Early Nineteenth Century Ottoman Empire」
メフメト・メルト・スナル（イスタンブール文明大学）
- ・「Recruitment Procedures in the Ottoman State during the Tanzimat Period : Military Exemption Tax (Bedel-i Askerî)」
ウール・ユナル（首相府オスマン文書館）
- ・「Educational Modernization and Muslim Private Educational Initiatives in the Ottoman Provinces (1856-1908)」
セルチュク・アクシン・ソメル（サバンジュ大学）
- ・「Ulama Families in the Ottoman Empire : Focusing on the Ebussuud Family」
松尾有里子（東京大学）
- ・「Two Introductions of Compulsory Education : The Ottoman Empire and Meiji Japan」
長谷部圭彦（早稲田大学）

●「APLA 2017年度 プロジェクト成果公表シンポジウム—学びあいが生み出す農家の未来—」 東南アジアの換金作物栽培地域における農業の多様化をめざして

日時：2017年12月16日(土)

会場：東洋大学 白山キャンパス 6号館 6206教室

共催：特定非営利活動法人APLA・アジア文化研究所

- ・開会のあいさつ本シンポジウムの趣旨説明
箕曲在弘（東洋大学社会学部准教授/APLA理事／社会学部准教授・アジア文化研究所研究員）

【3カ国農家の交流プログラム活動報告】

- ・フィリピン「カネシゲファームにおける循環型農業を中心に」
寺田俊（APLA事務局）
- ・東ティモール「コーヒー産地における水源保全活動とパーマカルチャー」
野川未央（APLA事務局）
- ・ラオス「コーヒー産地における農業多様化と持続可能な農業」
櫻井秋那（APLA事務局ボランティアスタッフ）
- ・参加メンバーの変化 寺田俊（APLA事務局）
- ・交流プログラムの意義 箕曲在弘（東洋大学社会学部准教授/APLA理事）
- ・3カ国農家の交流プログラムの成果に対するコメント
下田寛典（日本国際ボランティアセンター職員）
阿部健一（総合地球環境学研究所教授）
楠田健太（トヨタ財団プログラムオフィサー）
- ・ディスカッション
- ・閉会のあいさつ

〈セミナー〉

●境域研究セミナー「東南アジア島嶼部における国境管理と境域社会の変容」

日時：2017年1月7日(土)

場所：NPO法人「森は海の恋人」

- 主催：・2016年度研究所プロジェクト「グローバル化時代の境域社会における民族再編のダイナミクス－東南アジア・東アジアの地域間比較」（代表 長津一史）
- ・科研費（基盤B）「東南アジア島嶼部における国境管理レジームと境域社会の変容－地域間比較の視点から」

挨拶 島山 信（「森は海の恋人」副理事・牡蠣漁師）

趣旨説明 長津一史（社会学部准教授・アジア文化研究所研究員）

報告

- ・文化と境界：「ミナンカバウ・アイデンティティ」をめぐる域外地域の動態，クワンタンとヌグリスンビランの比較
加藤 剛（京都大学名誉教授・東洋大学アジア文化研究所客員研究員）
- ・フィリピン南部新自治政府設立過程における民族概念の再編
石井 正子（立教大学異文化コミュニケーション学部教授）
- ・インドネシアにおける海上国境管理と海洋安全保障
本名 純（立命館大学国際関係学部教授）
- ・インドネシア・東ジャワ州における粗放型エビ養殖とその社会過程
間瀬 朋子（東洋大学社会学部助教・アジア文化研究所研究員）

- ・タイの海民モーケン人の津波の前と後
鈴木 佑記（アジア文化研究所客員研究員）

〈研究会〉

●研究所プロジェクト研究会「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」（代表 井上貴也） 2014年香港社会法について—施行後の問題点について—

日時：2017年10月10日（火）

会場：東洋大学白山キャンパス 法学部共同研究室（2号館14階）

主催：研究所プロジェクト（代表者 井上貴也）

参加者氏名・所属

井上 貴也（アジア文化研究所研究員）（法学部企業法学科教授）

後藤 武秀（アジア文化研究所研究員）（法学部法律学科教授）

深川 裕佳（アジア文化研究所研究員）（法学部法律学科教授）

李 芝妍（アジア文化研究所研究員）（法学部法律学科教授）

郝 仁平（アジア文化研究所研究員）（経済学部国際経済学科教授）

朱 大明（アジア文化研究所客員研究員）

【概要】中国のインフラ輸出で注目を浴びている「一帯一路」政策について報告を行った。

法律制度の社会的インフラ輸出にも触れ、参加者からも質問を受けた。その後、香港会社法における株式会社の機関構成について報告を行った。特に、2014年香港会社法における企業統治の観点からの比較を検討した。

●アジア文化研究所後援 白山人類学研究会 第10回白山フォーラム「モノと人の移動にみる帝国日本—記憶・近代・境域」

日時：2017年11月11日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス 6号館1階 第3会議室

主催：白山人類学研究会

後援：東洋大学アジア文化研究所

- ・趣旨説明 植野弘子（東洋大学）
- ・「近代建築物にみる沖縄の「近代化」認識に関する一試論」 上水流久彦（県立広島大学）
コメンテーター：泉水英計（神奈川大学）
- ・「交錯する記憶——朝鮮半島をめぐる植民という日常」 鈴木文子（佛教大学）
コメンテーター：三尾裕子（慶應義塾大学）
- ・「沖縄県の台湾系住民をめぐる記憶の連続・断裂・散在——宮古地方と八重山地方を比較して」
松田良孝（フリー・ジャーナリスト）
コメンテーター：笠原政治（横浜国立大学）
- ・「国際交流事業における在日コリアンの参与——対馬と下関の朝鮮通信使再現行列を中心に」 中村八重（韓国外語大学）
コメンテーター：井出弘毅（東洋大学）

- ・「パイン産業にみる旧日本帝国圏を越える移動——ハワイ・台湾・沖縄を中心に」 八尾祥平（神奈川大学）
コメンテーター：箕曲在弘（東洋大学）
- ・総合討論

〈研究例会〉

●アジア文化研究所2017研究例会「韓国の助け合い文化 過去—現場—未来」・ 島嶼コミュニティ学会【第12回 島カフェ】

日時：2017年10月21日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス6号館1階 第3会議室

共催：東洋大学アジア文化研究所，島嶼コミュニティ学会

プログラム

司会 井出弘毅（アジア文化研究所客員研究員）

開会の辞 松本誠一（アジア文化研究所 所長）

趣旨説明 吉川美華（アジア文化研究所客員研究員）

講演 鄭賢京（韓国募金家協会 専門委員）

休憩

ミニトーク 孟鳳鶴（俳優）

討論 吉川美華（アジア文化研究所客員研究員）

質疑応答

閉会の辞 對馬秀子（島嶼コミュニティ学会副会長）

企画目的

本企画の目的は近年の韓国における民間の相互扶助現場におけるマンパワーとお金の調達の現況を文化的な側面から検討してみることです。

1990年代以前の韓国では、公務員や教員を除き社会保障制度が整備されておらず、家族や人脈ネットワークによって人々が支え合ってきました。1990年代以降は社会保障制度が整えられましたが、金融危機や長引く不況により、行政の支援が行き届かなくなった政策の「死角地帯」が生まれてきました。

今回お話くださる鄭賢京さんは、こうした現場で活動するファンレイザーであり、各種福祉資格を持つ福祉活動家でもあります。また今回は特別にもうお一人、一人暮らしの高齢者をたずねる活動をしていらっしゃる俳優の孟鳳鶴さんをお迎えしました。行政支援の「死角地帯」を民間のお金やマンパワーがいかに支えているのか、その背景にはどのようなメンタリティや文化があるのか、韓国のリアリティに迫ります。

本企画は井上円了大型研究特別支援助成「＜国境をまたぐ生活スタイル＞東アジア・東南アジア・南アジアの事例を通じて」（2015-2016：研究代表 松本誠一）の東アジア地域韓国を担当していた吉川美華が、現地調査の中で新たに得た知見をもとに企画を担当し、東洋大学アジア文化研究所が主催、島嶼コミュニティ学会の賛同を得て進められました。

俳優の孟鳳鶴さんの今回のご登壇は、ボランティアの広報と日韓交流活動の一環として、孟鳳鶴

さんのご厚情により実現しました。末筆ながらここに記し、主催者一同、深く感謝申し上げます。



参加者・発表者集合写真



左から孟鳳鶴氏、鄭賢京氏、吉川美華客員研究員、井出弘毅客員研究員

〈学 会〉

●アジア文化研究所共催「日本移民学会 第27回年次大会—The 27th Annual Conference at Toyo University—」

日時：2017年6月24日(土)・25日(日)

会場：東洋大学白山キャンパス6208教室・6216教室

共催：日本移民学会・東洋大学アジア文化研究所

大会第1日目：6月24日(土)

テーマ：「子どもと移民」

司会：野入直美（琉球大学）

報告：山田亜紀（筑波大学）、拝野寿美子（神奈川大学）、安場淳（中国 帰国者支援・交流センター）

コメント：田嶋淳子（法政大学）

総会

大会第2日目：6月25日(日)

自由論題報告4会場（詳細は別掲）

パネル部会2会場（共同研究発表・書評セッション 詳細は別掲）

ラウンドテーブル1会場（萌芽的共同研究発表・ワークショップ 詳細は別掲）

大会シンポジウム「子どもと移民」

- ・「新しい日系アメリカ人の顔：新一世両親による新二世児童に対する教育ストラテジー，ロサンゼルスにおける新日系コミュニティの事例を中心に」

山田亜紀（筑波大学）

- ・「日本における「移民の子ども」研究の動向－「ブラジルにつながる子ども」研究の事例を中心に－」

拝野寿美子（神奈川大学）

- 「高校入試の外国籍生徒特別措置・枠の全国調査」と支援者間ネットワーク
安場淳（中国帰国者支援・交流センター）
- コメント田嶋淳子（法政大学）

●島嶼コミュニティ学会 第7回研究大会

日時：2017年12月2日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス1号館1604教室

主催：島嶼コミュニティ学会

後援：東洋大学アジア文化研究所

【学生による活動報告】

- 「大崎上島での地域活性化」 三田裕希（大正大学）
- 「青ヶ島での教育支援活動」 野崎亮太（順天堂大学）
- 「離島での健康モデル地区化計画（青ヶ島）」 小野陵介（順天堂大学）
- トークセッション「島へ行く楽しみ」 司会：井月保仁（島旅行研究家）

【一般発表】

- 「日本国内における重国籍者と重国籍制度の現状と課題」 大西広之（四国大学）
- 「近世から近代移行期における日蓮宗不受不施派と村社会—房総夷隅地域を事例に」
内藤幹生（千葉県文書館）
- 「都市のスクラップ・アンド・ビルドと街路樹—東京の社会的背景からの分析」
愛みち子（東海大学）
- 「供えモチの諸相と階層差—文化と社会構造の相関に関する考察」
立柳聡（福島県立医科大学）
- 「キューバの人々は“満を持して”災害を迎える—超大型ハリケーン「イルマ」への対応から」 溝
田浩二・林守人・Lazaro M.Echenique-Diaz（宮城教育大学）

研究班活動報告

「東アジア経済のグローバル化とガバナンスに関する研究」

代表者 井上貴也

研究員：李芝妍 後藤武秀 深川裕佳

客員研究員：荒邦啓介 朱大明 高橋彩 中田有紀 盛岡一夫 山形勝義

平成二九年度は、本学の井上円了記念研究基金・研究所プロジェクトの研究と併せて活動した。研究対象は、東アジア南都における法状況の解明を継続して行った。対象地域として選定したのは、台湾、香港、マカオ、華南地域であり、現地調査に基いて法慣習と制定法の関係を明らかにするよう努めた。プロジェクトは最終年度を迎え、成果の発表作業に傾斜した。

香港会社法の研究については、10月10日(火)朱大明客員研究員によるスタッフセミナーを開催し、2014年香港会社法の改正に関するその後の課題について検討を行った。台湾については、従前に引き続き家族に関する慣習の解明、会社経営と一族の繋がりがコーポレートガバナンスに及ぼす影響についても考究を行った。

マカオ法についての法情報についてもポルトガル法との関係について考察を行ったところである。

中国民法についての概観作業を行ったところでもあり、今後は経過の集約に向けた作業を引き続き行う。

詳細については、研究プロジェクトのページを参照されたい。

「構造転換期の中国経済と社会」

代表者：郝 仁平

研究員：王学群，王雪萍，続三義，滝澤美帆，梁春香，劉永鶴

客員研究員：阿部照男，飯塚勝重，三浦明子，南亮進，横川伸

28年度の研究経過および研究活動：

減速局面に入った中国の経済と社会は大きな転換期を迎えており、そのインパクトと行方に世界が注目している。当研究班は急速な経済成長に伴う中国の経済・社会の変化を多角的総合的に捉え、その現状と諸課題を検証しようとするものである。

本年度は研究組織の充実を図るとともに、各研究員が各自あるいはグループで「中国経済の新常態と社会・文化の変容」、「中国の多国籍企業と一帯一路プロジェクトのリンケージ」、「中国の一帯一路戦略と内陸部の経済開発」というテーマを中心に研究を進め、学内外で研究結果の発表および情報交換を行った。また研究活動の一環として、7月22日に本研究所大型プロジェクトと共催する形で、公開シンポジウム「中国の胎動への視座：一帯一路政策の開始に際して」を開催した（詳細は本誌「研究例会」を参照）。

「海外駐在員のメンタルヘルス研究」

代表者：加藤千恵子

研究者：井上貴也，喜岡恵子，後藤武秀，ジェイムス・ダニエル・ショート，土田賢省

本研究班では、これまでの本研究班の主なテーマである海外赴任者のメンタルヘルスの成果の一部を他分野の成果や手法と融合させる形で発展させる目的で、「こころの可視化研究会」の活動を行っている。

本年度は、第7回と第8回の「こころの可視化研究会」を平成29年8月2日と12月19日にそれぞれ、東洋大学川越キャンパスで行った。第7回の研究報告は3件で、「ムーブ分析を使った科学論文の視覚的分析」（上辻先生，京都大学），「カウンセリングの会話内の人物の行動の可視化に関する研究」（上辻先生，京都大学），「言語データの定量的分析・可視化による心理状態の共通認識の促進」（青木先生，東洋大学）であった。第8回の研究報告は2件で、「シミュレーション技術を応用した3次元文化財の透視可視化」（田中先生，立命館大学），「言語データの定量的分析・可視化による心理状態の共通認識の促進」（第7回の継続で，新たに得られた結果を中心にした内容）（青木先生，東洋大学）

この他にも，平成29年5月に北京で開催されたThe 14th Asian Symposium on Visualizationにおいて，加藤が座長を務めた「Toplogy of mind」のセッションで，本研究会の成果を6件発表した。

今後は、「こころの可視化研究会」の成果を海外赴任者のメンタルヘルスにフィードバックすることにも取り組んでいきたい。

「東南アジアにおける地域社会のダイナミクス—宗教，教育，ジェンダーをめぐるグローバル化とローカル化」

代表者：後藤武秀

研究員：金田英子，木内明，小林正夫，谷釜尋徳，長津一史，山本須美子

客員研究員：石井隆憲，井上星児，大城美樹雄，太田辰幸，川上崇，新江利彦，末成道男，高津茂，中田有紀，中村理恵，西野節男，服部美奈，本多守，吉本康子，渡邊暁子

研究班の活動

本研究班の対象とする地域は東南アジアであり，中でもインドネシアとベトナムの研究者多く抱えている。残念ながら，この両地域の研究者たちの間に密接な連絡関係がないのが実情であるが，研究対象の差異に加え，各自の研究課題にも差異があることから，それも仕方がないことと考えている。今後の課題として，共通の課題を設定し，共同研究にまで展開できる体制を作り上げることがあげられるので，次年度以降に向かってその機会を作るよう努力したい。

本年の研究成果としては，主としてベトナム研究において進展を見た。少数民族の研究はベトナム研究のメンバーにより継続的に行われてきた課題であり，例年一定の成果を上げてきており，本年もまたその延長線上の研究成果を上げるに至った。インドネシアについては，残念ながら本研究所の年報に論文を発表するまでには至らなかった。しかしながら，客員研究員がそれぞれ他の媒体に研究成果を発表しているので，全体としては研究の停滞が起こっているとは言えない。

「多文化アジアにおける異文化接触と教育」

代表者：斎藤里美

研究員：野間信幸

客員研究員：王秋華，王淨華，木下江美，陳俊森

【研究の目的および概要】

近年、グローバル化が社会にもたらす変容は、格差を伴いつつ跋行的に進んでいることが指摘されるようになってきている (E.トッド 2015など)。また、グローバル化によるこうした負の側面が、人々のあいだに緊張をもたらし、社会の統合や結束のかたちにあらたな要求をつきつけている。

そこで本研究班では、こうした人々の集合的心性や帰属意識の変容を、越境する知識層や移民を通して分析・考察することとした。具体的な研究テーマとしては以下のようなものが挙げられる。

- (1) 多文化アジアにおける越境する知識人の文化的葛藤に関する歴史的研究
- (2) 多文化アジアにおけるトランスナショナルな関係と教育の役割
- (3) 多文化アジアにおける言語教育と高等教育の役割【メンバー】次の研究員2名、客員研究員4名で構成している。

【主な研究成果】

2017年度は、各自がこれまでの研究成果をとりまとめ、今後に向けた再検討を行うことに注力した。主な研究成果としては、以下のようなものがある。

〈論文〉

- ・斎藤里美「OECDの移民調査にみる移民第二世代の学校適応—国際比較調査の意義と限界—」(山本須美子編著『ヨーロッパにおける移民第二世代の学校適応 スーパー・ダイバーシティへの教育人類学的アプローチ』明石書店, 2017年, pp.31-47)
- ・斎藤里美「教育とエンハンスメントの社会学—「よりよくなる」ことが公教育の目的か—」『<教育と社会>研究』第27号, 2017年, pp.41-48.
- ・野間信幸「張文環作品の舞台を訪ねる」『天理台湾学報』第26号, 2017年7月, pp.1-16.

〈翻訳〉

- ・木下江美・布川あゆみ・斎藤里美監訳『移民の子どもと学校—統合を支える教育政策—』明石書店, 2017年9月, 全160頁。(原著: OECD [2015], Immigrant Students at School: Easing the Journey Towards Integration.)

〈学会発表〉

- ・斎藤里美「近未来社会における外国語学習の意味 —異文化理解から多文化創造へ—」, 日中対照言語学会第37回大会基調講演, 2017年5月28日(日), 大東文化会館ホール.

〈その他〉

- ・「台湾児童文学研究の到達点を示す著作」(中島利郎著『台湾の児童文学と日本人』研文出版 への書評)『図書新聞』第3308号, 2017年6月24日, 第4面.

「東アジア地域における統合と交流」

代表者：千葉正史

研究員：坂井多穂子

客員研究員：飯塚勝重，石川重雄，大川正彦，大室智人，菊池良輝，佐藤三千夫，真田安，鈴木直美，高津茂，高橋継男，竹内洋介，谷口房男，都甲裕文，廖国一

昨年度より発足した本研究班は、中国を中心とする東アジア地域の歴史的特質を、地域の統合と各地域間での交流の展開より明らかにすることを目的として、活動を展開している。

本研究班の活動は、前号で報告した2016年10月8日の第1回研究例会以後、2017年11月まで以下のように実施された。

○平成28年度第4回公開研究例会

期日：2016年11月1日(火)午後3時～午後5時30分

会場：東洋大学白山校舎5401教室

「中国伝統文化の保護及び開発—広西東興市万尾村の事例から」廖国一（アジア文化研究所客員研究員）

○公開シンポジウム「『華陽国志』の世界～巴，蜀，そして南方へのまなざし～」

期日：2017年9月30日(土)午後1時～午後6時

会場：東洋大学白山校舎8号館125記念ホール

「『華陽国志』に見られる蜀漢叙述」津田 資久（国士舘大学文学部教授）

「孫呉の南方展開とその影響」菊地 大（國學院大學文学部兼任講師）

「『華陽国志』と賈民李特」飯塚 勝重（アジア文化研究所客員研究員）

*井上円了記念研究助成・研究所プロジェクト「アジア諸言語史資料の汎用性データベースの開発と構築」（研究代表：三沢伸生）との共催

後者の公開シンポジウムに関しては、本研究班の前身たる「中華世界の拡大と再生」研究班メンバーが長期にわたり作成に取り組んだ「華陽国志訳注稿」の『人名・地名・官職名索引』が2017年1月に刊行されたことを契機として企画され、学外からも少なからぬ研究者の参加があった意義深い機会となった。

このほかには、佐藤三千夫客員研究員による従来からの「潜夫論」講読会の継続など、各研究員による個々の研究がなされたが、今後は研究班としての組織的な研究活動を、より一層図るべく検討したい。

「アジア諸国の憲法裁判所」

代表者：名雪健二

客員研究員：齋藤康輝，徐瑞静，鈴木陽子，成瀬 トーマス 誠

2017年度、名雪班は、韓国の憲法裁判所について研究することにした。

韓国が憲法裁判所を実際に設置したのは、第6共和国になってからであるが、それまでの沿革をまずみることにした。

つぎに、憲法裁判所は、いかなる人物で構成されているのかと同時に、その人物が、いかなる手続で選任されるのかを調べた。また、憲法裁判所の組織についても調べた。

さらに、憲法裁判所には、いかなる権限が配分されているのかをみた上で、重要な判例を取り上げて、憲法裁判所の下した決定について検討した。

加えて、憲法裁判所の決定としては、どのような形態があるのか、合憲決定とは別に、違憲決定

の形態を整理した。そして、違憲決定の効力についても検討した。

2017年3月10日に、憲法裁判所は、パク・クネ大統領に対して罷免の決定を下したが、これについては、今後検討することにした。

名雪班としては、比較憲法学的に、韓国憲法裁判所の構成および権限と、ドイツ連邦憲法裁判所のそれとの違いについても調べた。

「中国の文化と社会」

代表者：野間信幸

研究員：有澤晶子，井上貴也

客員研究員：小泉京美，田中路子，馬雪峰

活動無し（H29年度は代表者が国内研究のため不在となり活動休止）

「トランスナショナルリティ研究」

代表者：松本誠一

研究員：植野弘子，後藤武秀，小林正夫，志摩憲寿，長津一史，バイラ・プラサド・ビレンドラ，山本須美子，平島（奥村）みさ

客員研究員：井出弘毅，大畑裕嗣，加藤剛，金子正徳，北村由美，金東光，権香淑，小澤康則，塩崎（久志本）裕子，末成道男，鈴木佑記，疋田聰，宮下良子，森田良成，吉川美華，渡邊暁子

本研究班では、学外・海外研究者・知識人との共同学術集会の開催において東洋大学が拠点となる活動を展開した。

以下の各研究集会の詳細については本誌の「研究会合報告」該当箇所を参照されたい。

2017年3月14日に、吉川客員研究員の企画により、公開シンポジウム「韓国の大統領弾劾訴追の諸相——市民と憲法」を研究所研究例会として開催した。

2017年10月21日に、吉川客員研究員の企画により、島嶼コミュニティ学会との共催として、研究例会「韓国の助け合い文化——過去・現場・未来 人を助ける「人とお金」はどこから来たの？」を開催した。

上の2件は、激動する韓国の現在を知る一助として催された。前者では、ソウル特派員を勤めた東京新聞・山本有史論説委員の参加を得た。後者では、現代韓国社会に大きな影響を与えている市民活動に関係する二人（韓国募金家協会・鄭賢京専門委員，街頭デモ先頭によく立つ俳優・孟鳳鶴氏）を招いて、目標と考えを聞き、連帯・コミュニティ形成に関わる意見を交換した。

2017年6月24-25日に、山本須美子研究員，高橋典史社会学部准教授が会場校担当として日本移民学会年次大会が開催された。とくに大会シンポジウム「子どもと移民」では、トランスナショナルな状況での子どもの教育問題が扱われ，研究所との共催の核をなすプログラムであった。

2017年11月11日に、植野弘子研究員の企画により，研究所後援・白山人類学研究会第10回白山フォーラム「モノと人の移動にみる帝国日本——記憶・近代・境域」を開催した。

2017年12月2日に、島嶼コミュニティ学会研究大会が，研究所後援として開催された。大西広之

氏（四国大学）による「日本国内における重国籍者と重国籍制度の現状と課題」では、重国籍を認めない制度下でも「重国籍」状態を生じうる実状が具体的に報告された。

長津一史研究員は、一年間の海外研究に従事し、インドネシア、およびシンガポールで研究集会にたびたび参画し、シンガポール大学その他の東南アジアにおける主要研究機関との学术交流を進展させた。

「近代日本・イスラーム世界関係史」

代表者：三沢伸生

研究員：子島進 ロバート・ヒューズ

客員研究員：赤堀雅幸 安藤潤一郎 石井隆憲 石丸由美 今松泰 奥山直司 シナン・レヴェント
ト 下山伴子 高橋圭 ダニシマズ・イディリス 東長靖 仁子寿晴 ヌールッ
ラー・サト 福田義昭 嶺崎寛子 吉田達矢

本研究班は、19世紀に始まった日本とイスラーム世界の関係を研究員・客員研究員が適宜連携し、問題・課題を設定し調査・研究を進めている。本学専任の研究員としてイスラーム世界を研究する者が限られているため、過去・現在、本学非常勤講師、または本学学内研究プロジェクトに参画いただいている客員研究員に参画いただいて研究班を組織している。アンカラ大学の専任教員であるヌールッラー客員研究員は昨年度末に帰国したが、代わってシナン研究員が今秋より2年間の予定で来日され、本班の活動に積極的に協力いただいている。

昨年度は中東をめぐる時事問題の急変の影響を受けたが、本年度は落ち着きを取り戻し、一昨年度同様に様々な活動を展開することができた。詳細は後述の「研究例会」彙報欄をご参照戴くとして、子島研究員が本班の活動の一環として研究所プロジェクトを取得して、10月～12月に、大塚モスク、名古屋モスク、岐阜モスクなど関東～東海の在日イスラーム教徒の活動にかかわるワークショップを開催して、貴重な聞き取り調査を行った。三沢研究員を中心に客員研究員のシナンは、早稲田大学イスラーム地域研究機構の要請により同組織と共同して9月末より「オスマン帝国の軍制改革・正統性・文書史料」の講演会及び展示を開催した。両活動とも冊子体印刷により成果の公開を予定している。またほかにも研究所内の植野研究員ともワークショップを共同開催して、実り多き年であった。

そのほか研究員・客員研究員は個別に学術論文（『研究年報』を含む）・究書の執筆、学会等の口頭発表を随時行っている。また学外資金獲得にも積極的に動き、三沢・子島の協議のもと、本班での調査活動に基づき日本学術振興会科研費申請を行い、班の研究活動の活性化を図っている。

「アジアにおけるフィールドワーク実践の歴史的展開に関する研究」

代表者：箕曲在弘

研究員：植野弘子、小林正夫、寺内大左、長津一史、子島進、松本誠一、山本須美子

客員研究員：岩原紘伊、鈴木佑記、間瀬朋子

本研究班では、アジアにおけるフィールドワークを単に学術的な調査ばかりでなく、NGOや企業など多様なアクターによる営みとして位置づけて、その広がりを理解していくことを目的として

いる。この目的のもとで本年度は、12月16日(土)に「学びあいが生み出す農家の未来」と題するシンポジウムを学内で開催した。本シンポジウムは、2016年度トヨタ財団国際助成を受けてNPO法人APLAと代表者の箕曲が共同して実施した、フィリピンと東ティモール、ラオスの若手農家育成プロジェクトの成果を一般に公開することを意図して行われた。同プロジェクトは、東南アジア3カ国の換金作物栽培地域が共通に抱える課題を解決するために、3カ国での「フィールドワーク」を通して循環型農業の意義を若手農家に学んでもらう計画である。

また、松本研究員は、能海寛生誕150年を迎えるのを機に、飯塚勝重客員研究員、能海寛研究会、井上円了記念博物館と連携して、2018年に記念展示とシンポジウムを研究所企画として実施するため準備を進めた。能海は1898年から1901年にかけて中国探検行の記録を残しており、東亜同文会発足(1898)は同期であり、鳥居龍蔵(1895:遼東半島)・伊能嘉矩(1895:台湾)は少し早く、彼等の動向との関連が注目される。

研究所所報——2016年度～2017年度

アジア文化研究所日誌（平成29年1月～平成29年12月）

平成28年度

1月

7日 セミナー

境域研究セミナー「東南アジア島嶼部における国境管理と境域社会の変容」

※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい

21日 第6回運営委員会

【報告事項】 1. 各作業部会からの報告①各研究所プロジェクト活動状況について②『研究年報2016年』第51号の編集・印刷進捗状況について③研究所ホームページについて④研究年報バックナンバー著作権許諾の問い合わせ結果報告について 2. 理事会での研究所プレゼンについて（2/20） 3. 第11回年次集会（平成29年1月21日（土）13:00～）について 4. その他

【審議事項】 1. 平成28年度第5回運営委員会（11月26日開催）議事録（案）について 2. 第12回年次集会の日程について 3. 今年度後期の予算執行について 4. 出張（国内）について 5. アジア文化研究所平成28年度研究員総会について 6. 平成29年度研究班について 7. 平成29年度研究員登録について 8. 平成29年度客員研究員登録について 9. 平成29年度アジア文化研究所運営委員・体制について 10. その他

第11回年次集会

「アジアにおける国境をまたぐ生活スタイルの研究—東アジア・東南アジア・南アジアの比較を中心に—」

※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい

3月

13日 第7回運営委員会

【報告事項】 1. 平成27年度第6回学術推進委員会（2月24日）の報告 2. 平成28年度研究所予算額について（内示） 3. 平成28年度井上円了記念研究助成（大型・研究所プロジェクト）について 4. 平成26年度研究活動評価について 5. 平成27年度研究所プロジェクト活動報告（提出期限：平成28年4月15日） 6. 平成27年度研究所活動報告（提出期限：平成28年5月9日） 7. 各作業部会からの報告①『研究年報2015年』第50号本誌および別冊の出版について②研究所ホームページの英文化について③2015年度「研究活動」報告および2016年度「研究活動」計画書 8. 平成28年度客員研究員登録（2月26日締切）について 9. その他

【審議事項】 1. 平成27年度第6回アジア文化研究所運営委員会（1

月23日開催) 議事録(案)について 2. 研究所細則の改定について 3. 研究所利用に関する内規について 4. 平成28年度アジア文化研究所運営委員構成について 5. 研究班について 6. 出張申請について 7. 研究員・院生研究員登録(4月15日締切)について 8. 平成27年度今後の予算執行予定について(平成28年3月11以降) 9. 平成27年度研究員総会について 10. その他

研究員総会

【議題】 1. 平成28年度活動報告について 2. 平成28年度予算執行状況について 3. アジア文化研究所細則改正等について 4. 平成29年度事業計画について 5. 平成29年度予算(案)について 6. 平成29年度運営組織について 7. その他

【資料】 1. 平成28年度活動報告:『研究年報2016年』第51号抜粋アジア文化研究所2016年度「研究活動」報告書 2. 平成28年度アジア文化研究所予算執行報告書 3. アジア文化研究所細則改定 4. 平成29年度事業計画・課題 5. 平成29年度予算執行計画 6. 平成29年度アジア文化研究所運営委員 7. 平成28年度アジア文化研究所研究員・客員研究員・院生研究員一覧:『研究年報2016年』第51号抜粋「アジア文化研究所報」

14日 シンポジウム

アジア文化研究所共催「韓国の大統領弾劾訴追の諸相:市民の憲法」
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい

平成29年度

4月

1日 研究員委嘱

研究員委嘱
客員研究員委嘱(平成31年3月31日まで)

22日 第1回運営委員会

【報告事項】 1. 平成28年度アジア文化研究所 研究員総会(平成29年3月13日)について 2. 平成28年度予算執行結果について 3. 平成29年度予算執行計画について 4. その他①リポジトリーについて

【審議事項】 1. 平成28年度第7回運営委員会(平成29年3月13日開催)議事録(案)について 2. 平成29年度運営委員・任務分担について 3. 平成29年度アジア文化研究所事務担当者の執務体制及び研究所の鍵の管理について 4. 平成29年度予算執行について 5. 平成29年度活動計画①研究活動について(例会, 年次集会の日程などについて) ②ホームページ更新について③年報の刊行について④資料の収集について⑤アルバイトについて⑥研究所資料のデジタル化について⑦各プロジェクト活動について⑧各研究班活動について⑨その他 6. 平成28年度研究所プロジェクト研究報告書につ

いて（提出期限：4月14日(金)） 7. 平成28年度大型研究特別支援成報告書について（提出期限：4月14日(金)） 8. 平成28年度研究所活動報告書（提出期日：5月8日(月)）について 9. 平成29年度研究員・院生研究員の新規登録について（登録締切：4月15日(金)） 10. 出張について（海外） 11. その他①平成29年度運営委員会の開催日程について②その他

5月

20日 第2回運営委員会

【報告事項】 1. 平成28年度研究所活動報告書（5月8日締切）の提出について 2. アジア文化研究所利用規定について 3. 各作業部会からの報告①研究所ホームページについて ②その他 4. 各研究所プロジェクト・各班の活動について①班名称変更について 5. その他 ①研究所書架設置について②外部研究資金の申請にむけて③その他

【審議事項】 1. 平成29年度第1回運営委員会（4月22日開催）議事録（案）について 2. 『研究年報2017年』原稿応募について（6月9日締切予定） 3. 平成28年度研究活動評価の結果（指摘事項回答書）について※添付は27年度に提出したもの（案） 4. 各作業部会の活動計画について 5. 平成29年度図書購入について 6. 研究所予算執行状況について 7. 研究所使用について 8. その他

6月

17日 第3回運営委員会

【報告事項】 1. 各作業部会からの報告①各担当より（ホームページ・集会・国際交流）②その他 2. 各研究所プロジェクト・大型研究の活動報告 3. 各研究班の活動報告 4. その他 5. 研究所活動評価について①外部評価委員選出（5月31日選出済み）

【審議事項】 1. 平成29年度第2回運営委員会（5月20日開催）議事録（案）について 2. 『アジア文化研究所研究年報-2017-』原稿応募状況・採否について 3. 研究所活動評価について①研究所活動評価 自己点検・評価について（7月10日(月)締切） 4. 平成30年度予算要求について 5. 平成29年度客員研究員(10月更新分)申請について※通知が来ていないので締切未定 6. 出張申請について 7. アジア文化研究所一般運営費6月24日現在執行一覧 8. その他

24日・25日 学会

アジア文化研究所共催「日本移民学会 第27回年次大会—The 27th Annual Conference at Toyo University—」
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい

7月

20日 臨時運営委員会

【審議事項】 1. 平成29年度継続購入図書について 2. 平成29年

度予算要求について 3. その他

【報告事項】 1. 出張について 2. 集会等 3. その他

22日	シンポジウム 研究例会	アジア文化研究所公開シンポジウム・大型研究プロジェクト研究例会「中国の胎動への視座」 ※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
9月		
30日	シンポジウム	アジア文化研究所公開シンポジウム『華陽国志』の世界～巴、蜀、そして南方へのまなざし～ ※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
	シンポジウム	アジア文化研究所協力「早稲田大学イスラーム地域研究機構 史料展示会・講演会・国際シンポジウム」
10月		
1日	シンポジウム	同上
	研究員委嘱	客員研究員委嘱（平成31年3月31日まで）
10日	研究会	研究所プロジェクト研究会「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」（代表 井上貴也） 2014年香港社会法について一施行後の問題点について— ※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
21日	第4回運営委員会	<p>【報告事項】 1. 平成29年度臨時運営委員会以降の研究所関係集会について 2. 平成30年度予算要求書について（9月22日提出期限） 3. 平成29年度10月研究員・客員研究員登録申請について（9月1日提出期限） 4. 各作業部会から 5. その他・小澤客員研究員 証明書発行について（証明書送付済み）・長津先生 来年度受入予定外国人研究員について（サポートレター送付済み）</p> <p>【審議事項】 1. ①平成29年度第3回運営委員会（6月17日開催）議事録（案）について②平成29年度臨時運営委員会（7月20日開催）議事録（案）について 2. 海外研究所との協定について（中国・遼寧大学 日本研究所） 3. "平成30年度「井上円了記念研究助成」（研究所プロジェクト・大型研究）の募集について（10月13日提出期限） 4. 『アジア文化研究所研究年報－2017－』第52号の論文提出状況について 5. 『アジア文化研究所研究年報－2017－』第52号の刊行作業予定について 6. 平成29年度予算執行状況と今後の執行計画 7. 継続購入図書について 8. 出張申請について 9. 年次集会について 10. 平成30年度アジア文化研究所運営委員の体</p>

制について 11. その他

- 研究例会 アジア文化研究所2017研究例会「韓国の助け合い文化 過去—現場—未来」・島嶼コミュニティ学会【第12回 島カフェ】
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
- 11月
- 11日 研究会 アジア文化研究所後援 白山人類学研究会 第10回白山フォーラム「モノと人の移動にみる帝国日本—記憶・近代・境域」
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
- 18日 第5回運営委員会 【報告事項】 1. 遼寧大学日本研究所との協定締結について 2. 各作業部会からの報告①各研究所プロジェクト活動状況について②各研究班活動状況について③集会、ホームページ、編集、国際④自己点検・評価の回答について（11月30日締切）⑤その他 3. その他
【審議事項】 1. 平成29年度第4回運営委員会（10月21日開催）議事録(案)について 2. 『研究年報 2017年 第52号』について 3. 第12回年次集会（平成30年1月20日(土)開催予定）について 4. 平成30年度運営体制について 5. 平成28年度予算執行状況と今後の執行計画 6. 希望購入図書について 7. 出張について 8. "平成29年度12月～3月のスケジュールについて（12月・2月の運営委員会開催について） - 1月20日(土)第6回運営委員会/1月20日(土)年次集会/2月臨時運営委員会/3月第7回運営委員会・研究員総会など" 9. "平成29年度研究員・客員研究員・院生研究員募集について 2月17日締切 新規研究員・新規院生研究員のみ4月14日（※日程は昨年度、今年度は未定）" 10. 研究所グッズ作成について 11. その他
- 12月
- 2日 アジア文化研究所後援 島嶼コミュニティ学会 第7回研究大会
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい
- 16日 シンポジウム アジア文化研究所共催「APLA 2017年度 プロジェクト成果公表シンポジウム—学びあいが生み出す農家の未来—」東南アジアの換金作物栽培地域における農業の多様化をめざして
※詳細は本号所収の研究会合報告をご参照下さい

2017年寄贈交換文献目録（2016年12月～2017年11月）

研究所報

誌名	巻号数	発行者
アーミッシュたちの生き方—エイジ・フレンドリー・コミュニティの探求	No.141	国立民族学博物館
アジア研究所紀要	第43号・第165号	亜細亜大学アジア研究所
アジア情報室通信	第14巻第4号	国立国会図書館
アジア情報室通報	第15巻第1・2号	国立国会図書館
亜細亜大学学術文化紀要	第30・31号	亜細亜大学総合学術文化学会
アジア文化社会研究センターニューズレター	No.5	北九州市立大学アジア文化社会研究センター
あるくみるきく	No.83・No.120・No.126・No.158・No.165・No.178・No.179・No.191・No.203・No.240・No.243	近畿日本ツーリスト
井上円了センター年報	第25号	東洋大学井上円了研究センター
海外事情	第64巻第12号	拓殖大学海外事情研究所
海外事情	第65巻1号～11号	拓殖大学海外事情研究所
会報	No.77	公益財団法人アメリカ研究振興会
神奈川大学アジア・レビュー	No.4	神奈川大学アジア研究センター
川崎大師教学研究紀要	第2号	川崎大師教学研究研究所
関西大学東西学術研究所紀要	第50号	関西大学東西学術研究所
関西大学文化交渉学ニューズレター	第3号	関西大学文化交渉学研究拠点
教学研究紀要 佛教文化論集	第12号	川崎大師教学研究研究所
共生の文化研究	第11号	愛知県立大学多文化共生研究所
グローバル・コミュニケーション研究	第4・5号	神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所
経営論集	第88号	東洋大学経営学部
経営論集	第33号	大東文化大学経営学会
慶應義塾大学 言語文化研究所紀要	第348号	慶應義塾大学言語文化研究所
慶應義塾大学東アジア研究所ニューズレター	No.28	慶應義塾大学東アジア研究所
経済論集	第42巻第1号	東洋大学経済研究会
月刊みんぱく	第41巻第1号通巻472号～第41巻第12号 通巻第483号	国立民族学博物館
月刊みんぱく 40巻 総索引	40巻	国立民族学博物館
言語文化	第34号	明治学院大学言語文化研究所
高野山大学 密教文化研究所紀要	第30号	高野山大学密教文化研究所

誌名	巻号数	発行者
國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報	第9号・第10号	國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所
國學院大學研究開発推進機構 ニュース	No.21	國學院大學研究開発推進機構
国際関係学部研究年報	第38集	日本大学国際関係学部
国際関係研究	第37巻第1号	日本大学国際関係学部
国際関係研究	第37巻第2号	日本大学国際関係学部 国際関係研究所
国際教育研究所紀要	第27号	国際教育研究所
国際教育研究フォーラム	第73号～第75号	国際教育研究所
国際共生社会研究センター	No.41	東洋大学国際共生社会研究センター
国際基督教大学学報3-A アジア文化研究	43号	国際基督教大学アジア文化研究所
国際地域研究所創設30周年記念シンポジウム報告書		日本大学生物資源科学部国際地域研究所
国文学	第101号	関西大学国文学会
国立民族学博物館所蔵「ホピ製」木彫人形資料熟覧 ソースコミュニティと博物館資料との「再開」1	No.140	国立民族学博物館
国立民族学博物館調査報告138 学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ	No.138	国立民族学博物館
国立民族学博物館調査報告139 財団法人日本民族学協会附属民族学博物館（保谷民博）旧蔵資料の研究	No.139	国立民族学博物館
国立民族学博物館調査報告142 中国における歴史の資源化の現状と課題	No.142	国立民族学博物館
国立民族学博物館研究報告	41巻2号～41巻4号	国立民族学博物館
史艸	第57号	日本女子大学史学研究会
史叢	第96号	日本大学史学会
次世代人文社会研究	第13号	韓日次世代学術FORUM
社会科学研究所 第29回社研シンポジウム	2014年度	明治大学社会科学研究所
第16回日韓・韓日歴史家会議 報告書「現代社会と歴史学」		公益財団法人日韓文化交流基金
第17回 アジア太平洋フォーラム 淡路会議		アジア太平洋フォーラム・兵庫 会議事務局
大学院論集	第26号	日本大学大学院国際関係研究科

誌名	巻号数	発行者
拓殖大学 語学研究	第135号・第136号	拓殖大学言語文化研究所
民博通信	No.155	国立民族学博物館
中央研究院 歴史語言研究所 集刊	第87本第4分	中央研究院歴史語言研究所
中央研究院 歴史語言研究所 集刊	第88本第1分・第2分	中央研究院歴史語言研究所
中国環境問題研究報告書		静岡県立大学グローバル地域センター
中国哲学論集	第41号・第42号	九州大学中国哲学研究会
中東研究	第528号～第530号	公益財団法人 中東調査会
調査研究報告書 小倉進平博士原稿『語彙—新羅及高麗時代』—朝鮮語研究資料「小倉進平関係文書」より—	No.61	学習院大学東洋文化研究所
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所要覧		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
東京女子大学紀要 論集	第67巻（2号）	東京女子大学
東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室紀要 韓国朝鮮文化研究	第16号	東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室
東南アジア研究	Vol.54 No.2	京都大学東南アジア地域研究研究所
東南アジア研究	Vol.55 No.1	京都大学東南アジア地域研究研究所
東洋	Vol.156	東洋大甫水会
東洋史苑	第88号・第89号	龍谷大学東洋史学研究会
東洋大学経営論集	第89号	東洋大学経済学部
東洋大学校友会報	No.270	東洋大学校友会
東洋大学社会貢献センター年報	平成27（2015）年度版	東洋大学社会貢献センター
東洋哲学研究所紀要	第32号	東洋哲学研究所
東洋文化研究	第19号	学習院大学東洋文化研究所
東洋法學	第61巻第1号	東洋大学法学会
東洋法學	第60巻第2号通巻135号	東洋大学法学会
東洋法學	第60巻第3号	東洋大学法学会
徳島文理大学研究紀要	第93号・第94号	徳島文理大学研究紀要編集委員会
なじまあ—Accessible Asia—	第7号	立教大学アジア地域研究所
南山考人	45号	南山考古文化人類学研究所
南山大学人類学博物館紀要	第35号	南山大学人類学博物館
南方文化	第43号	天理南方文化研究会

誌名	巻号数	発行者
日韓文化交流基金NEWS	No.80～83	公益財団法人日韓文化交流基金
日本研究	第69号～第72号	韓国外国語大学校 日本研究所
人間文化研究機構 現代中国地域研究推進事業(第2期) 実績評価報告書		大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合人間文化研究推進センター
『秘蔵寶鑑』の研究 第一分冊 高野山大学 密教文化研究所紀要別冊		高野山大学密教文化研究所
広島大学現代インド研究 空間と社会	Vol.7	広島大学現代インド研究センター
広島大学大学院文学研究科論集	第76巻	広島大学大学院文学研究科
福岡大学研究推進部ニュース&レポート Research	No.83～85	福岡大学研究推進部
2016年度 不知 地理学実習報告書 岐阜県中津川市不知の地理と民俗	34	立教大学文学部地理・人類学研究会
プロジェクト「宗教と科学の対話」高野山大学 密教文化研究所紀要 別冊		高野山大学密教文化研究所
文化	第80巻第1・2号	東北大学文学会
文化	第80巻第3・4号 秋・冬	東北大学文学会
北東アジア研究	第28号	島根県立大学北東アジア地域研究センター
民族学研究所資料彙編	第24期	中央研究院民族学研究所
民博通信	No.157・No.158	国立民族学博物館
明治大学 社会科学研究所紀要	第53巻第1号・2号	明治大学社会科学研究所
明治大学 社会科学研究所紀要	第54巻第1号・2号	明治大学社会科学研究所
明治大学 人文科学研究所紀要	第76冊～79冊	明治大学人文学研究所
横浜市立大学論叢	社会科学系列第68巻第2・3号	横浜市立大学学術研究会
横浜市立大学論叢	人文科学系列第68巻第2・3号	横浜市立大学学術研究会
横浜市立大学論叢 社会科学系列	第68巻第1号	横浜市立大学論叢
横浜市立大学論叢 人文科学系列	第68巻第1号	横浜市立大学学術研究会
立命館国際研究	29巻2号・30巻1号	立命館大学国際関係学会
龍谷大学世界仏教文化研究センター 2016年度 研究活動報告書		龍谷大学世界仏教文化研究センター
龍谷大学佛教文化研究所紀要	第55集	龍谷大学佛教文化研究所
龍谷大学佛教文化研究所所報	第40号	龍谷大学佛教文化研究所
歴史研究	第54号	大阪教育大学歴史学研究室

誌名	巻号数	発行者
AFRICAN STUDY MONOGRAPHS	Vol.37No.1～4	京都大学アフリカ地域研究センター
AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Supplementary Issue	No.53	京都大学アフリカ地域研究センター
Asia Pacific 14th Conference		立命館アジア太平洋大学アジア太平洋研究センター
CALE NEWS 名古屋大学法政国際教育協力研究センターニューズレター	No.38	名古屋大学法政国際教育協力研究センター
CAS News Letter	No.7	神奈川大学アジア研究センター
Center for Sustainable Development Studies	No.27	東洋大学国際共生社会研究センター
eai bulletin	vol.18 No2	EAST ASIAN INSTITUTE
Journal of Cultural Interaction in East Asia	Vol.8	Society for Cultural Interaction in East Asia
Keio Institute of East Asian Studies	No.27	慶応義塾大学東アジア研究所
MINPAKU Anthropology Newsletter	No.43	国立民族学博物館
MINPAKU Anthropology Newsletter	No.44	国立民族学博物館
NEAR News	第51号	島根県立大学北東アジア地域研究センター
News Letter	No.6	神奈川大学アジア研究センター
NEWSLETTER	No.74・75	京都大学東南アジア研究所
NOMURA JOURNAL OF ASIAN CAPITAL MARKETS	Spring 2017 Vol.1/No.2	Nomura Foundation
NOMURA JOURNAL OF ASIAN CAPITAL MARKETS	Autumn 2017 Vol.2/No.1	Nomura Foundation
Research	Vol.21 No.4	福岡大学研究推進部
Ritsumeikan Annual Review of International Studies	Vol.15	立命館大学 国際関係学会
Ritsumeikan Journal of Asia Pacific Studies	Vol.35	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋研究センター
RUGAS	No.33	立教大学文学部地理・人類学研究会
Senri Ethnological Studies94 Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia,Africa.and South America	No.94	国立民族学博物館

誌名	巻号数	発行者
SMC NEWS ICU宗教音楽センター会報	第80号	国際基督教大学宗教音楽センター
SOUTHEAST ASIAN STUDIES	vol.5 No.3	京都大学東西アジア研究所
Southeast Asian Studies	Vol.6 No.1・No.2	京都大学東南アジア研究所

2016年度～2017年度購入図書目録（2017年1月～2017年11月）

研究所報

書籍名	著者・編集者・翻訳者 等
アジア太平洋経済圏史 1500-2000	Bogac Ulker,Bahadir他
アジア市場（マーケット）の文化と社会	宮沢 千尋
欧州航路の文化誌（古書）	橋本順光・鈴木禎宏
岡田英弘著作集 1～8	岡田英弘
海賊からみた清朝 十八～十九世紀の南シナ海	豊岡 康史
漢人社会の礼楽文化と宗教	鄭 正浩
金正恩時代の中学校教科書資料集 1セット （+内部映像・文書資料集のテキスト）	石丸治郎（編）
グローバリゼーション下の東アジアの農業と農村	原 剛
グローバル支援の人類学	信田敏宏
現代アジアにおける華僑・華人ネットワークの新展開	庄 国土・清水 純 藩 宏立
国家統計調査制度2015（上・下）	国家統計局
葬儀の植民地社会史 帝国日本と台湾の<近代>	胎中 千鶴
大清帝国隆盛期の実像 第4代康熙帝の手紙から 1661-1722	岡田 英弘
台湾儒学 起源、発展とその変転	陳 昭瑛
台湾と伝統文化	池田 晶子 池田 辰彰 陳 昭瑛
台湾の宗教と中国文化	酒井 忠夫
台湾の道教と民間信仰	劉 枝万
台湾法におけるに日本的要素	王 泰升
台湾民間信仰研究文献目録	見尾 裕子 林 美容
地中海1 普及版～5 普及版	Braudel,Fernand 浜名 優美
中国人口年鑑 2015	中国社会科学院人口与劳动经济研究所編
中国人の宗教儀礼 道教篇	大淵 忍爾
中国の<憑きもの>華南地方の蠱毒と呪術的伝承	川野 明正
東洋学報1 卷-10巻セット	東洋協会 編纂
東洋協会調査部学術報告	東洋協会 編纂
トマ・ピケティの新・資本論	トマ・ピケティ（著）,村井 章子（翻訳）
日本統時期台湾における訳者及び「翻訳」活動：植民地統治と言語文化の錯綜関係	楊承淑
日本統治化下ミクロネシア文献目録	山口 洋兒
東アジアの祭祀伝承と女性救済	野村 伸一
変容する華南と華人ネットワークの現在	塩出 浩和 谷垣 真理子

書籍名	著者・編集者・翻訳者 等
ボワソナードと国際法	大久保 泰甫 (著)
道教関係文献総覧	石田 憲司
民衆道教の周辺	可児 弘明
明治日本における台湾像の形成：新聞メディアによる1874年「台湾事件」の表象	陳 萱
モンゴルから世界史を問い直す	岡田 英弘
訳注 明史刑法志	野口 鉄郎
リン家の人々 台湾農村の家庭生活	Wolf, Margery 中生 勝美
“2015”中国-东盟研究蓝皮书	广东海洋大学东盟研究院
“一带一路”建設対策研究	劉衛東等著
“一带一路”戦略及東北亜研究	朝克著
“一带一路”戦略与人民幣国際化	中国人民大学著
“一带一路”戦略与西南辺疆的開放、穩定与發展	林文等著
“一带一路”与中国發展戰略	張蘊嶺著
「アジア」を考える 2000～2015	藤原書店編集部
「東アジアの火薬庫」中台関係と日本	丸山 勝 山本 勲
<宗教>と中国社会	川口 幸大 瀬川 昌久
21世紀の資本	トマ・ピケティ
21世紀海上丝绸之路 广东再出发	司徒尚纪
21世紀海上丝绸之路与广州	郭凡, 蔡国萱
一國兩制在香港的實踐	劉兆佳
一國兩制與基本法：歴史、現實與未來	王振民
一带一路 法律保障机制研究	石佑扃, 韩永红
一带一路战略与海关 国际合作法律机制	何力 (主編)
家国天下 现代中国的个人国家与世界认同	许纪霖
華僑華人研究報告2016	賈益民著
我们香港这些年 Hong Kong Memory	徐天成
回歸後的香港政治	劉兆佳
香港司法制度	朱國斌
香港社会的政制改革	刘兆佳
香港政制發展歷程 1843-2015	王鳳超
香港法律文化研究	何志輝
国际法 热点问题研究	马忠法 (主編)
国际法 (第三版) (21世纪国际法学系列教材)	邵沙平 (主編)
国际法新命题 基于21世纪海上丝绸之路建设的背景	张相君
国际法的未来	何志鹏, 历咏, 孙劫

書籍名	著者・編集者・翻訳者 等
走向印度洋-“綉絲之路經濟帶”	曲鳳杰等緒
他者中的華人	孔飛力
中國教育年鑑2015	編委會編
中國經濟特區發展報告2016	陶一桃等著
中國經濟年鑑2015（一帶一路卷）	編委會編
中國交通運輸統計年鑑2015	中華人民共和國交通運輸部編
中國工程企業“走出去”經驗與教訓-“一帶一路”大實踐	周嘯曉著
中國考古學年鑑 2015	王巍（主編）中國考古學會（編）
中國產業競爭力報告2016 No.6-“一帶一路”戰略與貿易發展新動能的培育一	張其仔等著
中國對外直接投資與國家風險報告（2017）“一帶一路”海外建設新版圖	編委會編
中國-東盟國家統計年鑑2016	編委會著
中國年鑑（2017）	中國研究所 編
中國文化「走出去」年度研究報告	張西平著
中國保稅區出口加工區年鑑2016	編委會編
中國旅遊統計年鑑2016（全二冊）	國家旅遊局編
中國統計年鑑 2016（總35）（漢英對照）（附CD-ROM）精裝	中華人民共和國國家統計局 編
東南アジア 歴史と文化 46	東南アジア学会
批判香港	黃盛
從黃河文明到“一帶一路”（第2卷）	李曉鵬
綉絲之路經濟帶發展報告（2017）	任宗哲等著
Civil Unrest and Governance in Hong Kong（「極東ニュース638号・1051番」香港における市民の暴動と統治）	Michael H.K. Ng (Editor), John D Wong (Editor)
Competition Law in Hong Kong	Raymond Chan
Compliance and Company Secretarial Practice of Hong Kong Listed Companies	Andrew Tsang
Directors' Duties: Third Edition	Andrew Keay
European Muslims and the Secular State	Sean McLoughlin, Jocelyne Cesari
European States and their Muslim Citizens	John R. Bowen
Europe's Angry Muslims	Robert Leiken
Fiduciary Duties: Directors and Employees (Second Edition)	Andrew Stafford
For Humanity Or for The Umma?	Marie Juul Petersen
German and Asian Perspectives on Company Law（「極東ニュース638・1415番」神田秀樹他編 ドイツとアジアの社会法の視座）	Holger Fleischer, Professor of Law Hideki Kanda, Kon Sik Kim, Peter Mulbert
Hong Kong Company Law, 14/E	Vannessa Scott

書籍名	著者・編集者・翻訳者 等
Hong Kong Company Secretary's Practice Manual, 3rd Edition	Belinda Wong
Hong Kong Legal Principles: Important Topics for Students and Professionals	Stephen Mau
Introduction to the Hong Kong Basic Law 2nd Edition	Danny Gittings
Law of Companies in Hong Kong	Sweet & Maxwell
NGOs in the Muslim World	子島進
Radicalization in Western Europe	Carolin Gorzig, Khaled Al-Hashimi
Sihombing's Hong Kong Company Law: Commentary on CAPs 622 & 32 (2nd Edition)	Judith Sihombing
The Company Director: Powers, Duties and Liabilities	Peter Loose
The Daily Lives of Muslims	Nilüfer Göle
The Muslim Question in Europe	Peter O'Brien
To Be a European Muslim	Tariq Ramadan

【平成29年度 アジア文化研究所研究員】(◎所長、○運営委員)

有澤晶子 ○井上貴也 植野弘子 王亜新 王学群 王雪萍 ○郝仁平 ○加藤千恵子 桂直美 川崎ミチコ ○木内明 喜岡恵子 木村一 ○後藤武秀 小林秀年 小林正夫 ○斎藤里美 坂井多穂子 佐々木啓介 篠崎正彦 志摩憲寿 続三義(シヨク サンギ) 谷釜尋徳 ○千葉正史 土田賢省 寺内大左 長津一史 ○名雪健二 ○子島進 野間信幸 バイラ・プラサド・ビレンドラ 平島(奥村)みさ 深川裕佳 ◎松本誠一 ○箕曲在弘 ○三沢伸生 山口しのぶ 山本須美子 ロバート・ヒューズ 李芝妍 梁春香 劉永鶴

【平成29年度 アジア文化研究所客員研究員】

赤堀雅幸 阿部照男 荒邦啓介 安藤潤一郎 飯塚勝重 石井隆憲 石川重雄 石丸由美 井出弘毅 井上星児 今松泰 岩原紘伊 王秋華 王浄華 大城美樹雄 大川正彦 太田辰幸 大畑裕嗣 大室智人 奥山直司 小澤康則 加藤剛 金子正徳 川上崇 北村由美 木下江美 権香淑(クオン ヒャンスク) 菊池良輝 金東光 小泉京美 齋藤康輝 佐藤三千夫 真田安 塩崎(久志本)裕子 シナン・レヴェント 下山伴子 朱大明 徐瑞静 新江利彦 末成道男 鈴木直美 鈴木佑記 鈴木陽子 高橋圭 高橋継男 高橋彩 高津茂 竹内洋介 田中路子 谷口房男 Danismaz・Idiris(ダニシマズ・イディリス) 陳俊森 東長靖(トウナガヤスシ) 都甲裕文(トコウヒロフミ) 中田有紀 中村理恵 成瀬・トーマス・誠 仁子寿晴(ニゴトシハル) 西野節男 ヌールッラー・サト 服部美奈 疋田聰 福田義昭 本多守 間瀬朋子 馬雪峰(マセキホウ) 南亮進 宮下良子 盛岡一夫 森田良成 山形勝義 山口道宏 横川伸 吉川美華 吉田達矢 吉本康子 廖国一(リョウ コクイチ) 梁・凌詩・Nancy 渡邊暁子

【平成29年度 アジア文化研究所院生研究員】

荻翔一 小林栄輝 中村祐也

【平成30年3月31日退任予定研究員】

植野弘子 名雪健二

東洋大学アジア文化研究所研究年報 投稿規程

1. <目的>

『アジア文化研究所研究年報』(以下、本誌という)は、東洋大学アジア文化研究所(以下、本研究所という)の機関誌であり、広くアジアにかかわる研究成果をとりまとめて、原則として毎年1回、年度末をめぐりに刊行する。

2. <投稿資格者>

本誌への投稿資格者は以下の者とする。

- (1) 本研究所の研究員・客員研究員。ただし研究員の共著においては、共著者の所属は問わない。
- (2) 本研究所の院生研究員。投稿については、本研究所院生研究員内規の定めに従う。
- (3) 本研究所の運営委員会が特別に依頼した者。
- (4) 「東洋大学研究倫理規定」を遵守すること。

3. <原稿区分>

本誌に掲載される原稿は、一般投稿原稿・プロジェクト報告原稿・それ以外のものに分ける。

4. <採択>

投稿資格者には春学期期間中に事前の投稿希望を調査する。投稿原稿の調整や掲載の採否などは本研究所運営委員会において審議のうえ決定する。

5. <東洋大学学術情報リポジトリ登録>

投稿希望者は、投稿希望調査に際して、東洋大学学術情報リポジトリに登録し原稿を電子的に複製してインターネットでアクセスできるようにすることの諾否を選択し、本研究所運営委員会に伝える。意思表示のない場合は、登録を承諾したものとみなす。

執筆要領

1. 投稿原稿は、図表・写真・注記・参考文献などを含めて、使用言語が、日本語・ハングルなどの場合は、400字詰原稿用紙80枚以内(40字800行以内)、中国語の場合は400字詰原稿用紙50枚以内(40字500行以内)で作成すること。アルファベット表記の外国語の場合は、13,000語以内で作成することとする。プロジェクト報告書に関しては運営委員会において審議の上で枚数を決定する。
2. 投稿原稿は、原則としてパソコンのワープロソフトで作成し、電子媒体(①wordもしくは一太郎と②PDFの2種類)とプリントアウトしたものを双方を提出することとする。電子媒体は指定のアドレスにメールで送信すること。紙媒体のものは郵送、持参のいずれも可とする。また事務連絡の必要上、連絡先(住所・電話・FAX・Eメールアドレスなど)を明記すること。
3. 原稿提出締切日、採択の場合の著者校正などの日程は本研究所運営委員会より別途連絡する。
4. 投稿原稿には、以下のものを、順に記載すること。①題名(副題がある場合には副題も)、②著者名、③所属・身分(東洋大学以外に本務先がある場合には本務先も)、④キーワード(日本語もしくは外国語・5つ程度)、⑤本文、⑥注記・参考文献(引用文献)
※なお、日本語投稿原稿の場合は英文情報(題名・著者名・所属・身分・要旨200ワード程度)、外国語投稿原稿の場合には和文情報(題名・著者名・所属・身分・要旨200字)を合わせて提出すること。
※申請後の題名の大幅な変更は認めない。
5. 図・表・写真を添付する場合は、以下のことに留意すること。
 - (1) そのまま原稿として使用できる状態で提出をすること。
 - (2) 本文における挿入箇所は投稿原稿の欄外に赤字で指示を明記すること。
 - (3) 通し番号・記号・キャプションを付す場合には投稿原稿の欄外に赤字で指示を明記すること。
 - (4) 図・表・写真に関しては、運営委員会の判断により、点数・大きさなどを変更する場合がある。
6. 提出原稿は、付記の表記法にもとづき、完成原稿の希望に準じて提出すること。
7. 外国語特殊文字に関しては、投稿原稿の当該部分に赤丸をつけ欄外に赤字で指示を明記すること。
8. 投稿原稿は採否にかかわらず原則返却しない。
9. 不明な点は、本研究所運営委員会編集担当および本研究所付事務方に問い合わせるものとする。

付則：投稿規程の改変

本投稿規程は必要に応じて運営委員会の議を経て改定するものとする。

(2017年5月20日改定)



マレーシアのチャムを訪ねて——マレーシアにおけるチャムコミュニティの初期調査——	中村理恵	139 (228)
ベトナム・ビンフック省に居住するブロ集団の婚礼の変容	本多守	123 (244)
ゴォ・ヴァン・チェウ (Ngô Văn Chieu) とカオダイ教内教心傳 (Nội Giáo Tâm Truyền)	高津茂	101 (266)
日汉翻译——以《天声人语》(1992.1.27) 为例——	续三义	91 (276)
血統と血脈の相剋——植民地朝鮮における司法判断の諸相——	吉川美華	70 (297)
中國五代十國時期墓誌綜合目錄 (增訂稿)	高橋繼男	24 (343)
昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象 (3) ——神戸篇 (後篇) 陳舜臣——	竹内洋介	1 (366)

目 次

孔明出廬に関する二・三の疑問…………… 菊池良輝…………… 366(1)

新仏教徒能海寛の『在渝日記』に見る連作五言詩について…………… 飯塚勝重…………… 347(20)

*

【研究所活動記録 2016～2017年度】

投稿規程・執筆要領…………… 329(38)

研究所所報…………… 313(54)

研究班活動報告…………… 306(61)

研究会合報告…………… 296(71)

調査・研究活動…………… 293(74)

【報告】研究所プロジェクト「アジア諸言語史資料の汎用性データベース開発と構築」…………… 241(126)

【報告】研究所プロジェクト「珠江デルタ地帯における西洋近代法と伝統的宗法規範の対立と同化に関する研究」…………… 203(164)

【報告】平成29年度井上記念研究助成 大型研究特別支援助成報告
 「『一帯一路』経済政策による中国経済の海外展開とその関係諸地域に及ぼす文化的影響」…………… 159(208)

*

アジア文化研究所研究年報 第52号 2017年

Annual Journal of
the Asian Cultures Research Institute
No.52 —2017—

印刷2018年2月21日

発行2018年2月28日

The Asian Cultures Research Institute (Director : MATSUMOTO Seiichi)	編集兼発行	東洋大学アジア文化研究所 (所長 松本誠一)
TOYO University		〒112-8606
5-28-20, Hakusan, Bunkyo-ku		東京都文京区白山5-28-20
Tokyo 112-8606, Japan		電話 (03)3945-7490

アジア文化研究所ホームページ <http://www.toyo.ac.jp/site/acri/>

Copyright Japan 2018 by *the Asian Cultures Research Institute*, all rights reserved

Tel : (03)3945-7490

Fax : (03)3945-7513

Printed in Japan

YOSHIDA PRINTING INC.

Tel : (03)3626-1301

ISSN 1880—1714

印刷・製本 ヨシダ印刷株式会社

電話 (03)3626-1301

【非売品】



アジア文化研究所
研究年報

第52号

2017年

東洋大学アジア文化研究所
(旧・アジア・アフリカ文化研究所)
東京都文京区白山5-28-20